

新潟市水族館指定管理者 平成22年度事業計画書

1. 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて鋭意努力します。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。

平成22年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。

	目標値	目標値の設定根拠
入館者数	480,000人 以上	直近3カ年の平均以上
入館料収入	427,000千円以上	

常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっておりますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。

①臨時開館（年始）…平成23年1月2日・3日

②臨時閉館（電気設備法定点検等）…平成23年3月1日～4日

③開館時間変更

a. GW… 平成22年5月2日～4日

開館時間30分繰上…午前8時30分開館

b. 海の日3連休…平成22年7月18日～19日

開館時間30分繰上、開館時間1時間延長…午前8時30分～午後6時開館

c. 夏休み…平成22年7月24日～8月29日（下記お盆期間を除く）

開館時間1時間延長…午後6時閉館

d. お盆… 平成22年8月14日～16日

開館時間30分繰上、開館時間1時間延長…午前8時30分～午後6時開館

2. 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門（常設展示）

約 450 種、20,000 点の魚類等の飼育展示規模を維持するとともに、科学的配慮に基づく展示、生物の収集、育成、訓練に努め、展示内容の魅力の向上を図ります。来館者に対する正確かつタイムリーな情報提供に努め、常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を心掛けます。

また、解説を含むプレゼンテーション型展示として、イルカショー、トドの給餌タイム、ラッコの給餌タイムを通年で実施します。

(2) 啓発・普及部門

①特別展の企画運営

季節的かつテーマに基づく特別展示を行い、常設展示を補完します。

a. 春期特別展「新潟県の希少淡水魚保護の現状」

開催期間…平成22年3月20日（土）～4月11日（日）

新潟県に生息する代表的な希少淡水魚シナイモツゴ、イバラトミヨ、ホトケドジョウの保護活動に取り組む4つの地元団体をパネルで紹介し、関連資料も展示します。

また、水族館で繁殖に成功した希少淡水魚も展示します。

b. 開館20周年記念夏期特別展「対馬暖流の贈り物」

開催期間…平成22年7月17日（土）～8月31日（火）

マリンピア日本海は開館から現在までの間に、冬期に衰弱して打ち上げられるウミガメ類やハリセンボン、時おり打ち上がるクジラ類、まれに見ることが出来るウミヘビ類等、非常に多くの漂着生物を確認・調査してきました。

平成22年度の夏期特別展は、20年の運営活動の記念的事業として、新潟県の海岸に対馬海流によって運ばれてくる生物について、生体や標本等を用いて紹介します。熱帯地方から暖かい海水を日本へ運ぶ黒潮から分岐してできる対馬海流は、本州の日本海側のほぼ中間に位置する新潟県の海岸へいろいろなものを運んできます。「冬の荒海」的なイメージのある「日本海」が、実は熱帯地方ともつながりがあることを実感してもらおうとともに、海洋生態系の多様性と新潟の地域性を感じてもらえる展示を行います。

20周年記念ということでの特別な予算措置はされませんでした。スタッフの専門的な知識と平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、指定管理料を有効に活用して、実りのある展示にしたいと考えています。

c. 臨時特別展（内容未定）

開催時期…未定

特定の季節に見られる水生生物に注目し、生態や生息環境を紹介します。

②いきもの教室の企画運営

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的に、毎月一回の頻度で週末に実施します。季節感も考慮したテーマ設定を行い、また、対象年齢をプログラムにより細分化し、内容と解説方法にも工夫を施すことで、参加者全員が楽しく理解を深められるように心

掛けます。

平成18年度にスタートした「いきもの教室」は、今まで担当する数人の職員で「教室内容」の原案作成を行ってきましたが、平成22年度からは、原案作成の段階から展示課全職員によるアイデア出し及び内容検討を行うように体制を変更し、より多角的な視野・視点を持った企画立案を行い、より充実した教室を提供していきたいと考えています。

③バックヤードツアーの実施

通常は公開していない水族館のバックヤードを職員の引率で見学してもらいます。

水質管理の仕組みや餌の解説等を通じて、水生生物やその生息環境について関心を高めてもらいます。

1回約30分間

平日…2回/日、1回10名程度

土・日・祝日…3回/日、1回10～20名程度

④ペンギンガイドの実施

バックヤードで、パネル、巣箱、羽毛、卵の標本やレプリカを用いて、分類や生態、生息地の環境、フンボルトペンギンの絶滅に瀕した背景、生息地域外保全活動、繁殖の実施等の解説を行い、ペンギン類とその生息環境への理解を深めてもらいます。

1回/日、約30分間・10名程度

⑤タッチ水槽ガイド

タッチ水槽の脇で、簡単な実験をお見せしながら、生き物の生態を紹介します。

1回/日（祝日を除く月～金曜日）、約15分・15名程度

⑥サマースクールの企画運営（付帯事業）

夏休み期間中に、普段接する機会の少ない水族に直接触れ合い、学習できる体験型プログラムを実施します。水生生物に関する正確な情報を提供することで、野生種の生存への関心を深めてもらい、環境保全について考える機会にしてもらいます。

※平成21年度には以下のプログラムを実施。平成22年度も生物の負担（体調）等を勘案しながらとなりますが、同様のプログラムを実施する予定です

a. ドルフィンスクール

写真や標本を用いた講義、実際のイルカの観察、ポディーチェック体験等を通して、イルカの正確な体の形や仕組みを理解してもらいます。

主に児童、生徒を対象としたプログラムを行います。

b. イルカトレーナー体験

イルカの飼育への理解を深めることを目的に、トレーナーの日常業務の一部を体験してもらいます。

イルカを飼育する上で不可欠な飼育環境の整備・餌の管理・イルカの健康管理・飼育日誌の記入等を体験的に学んでもらいます。また、イルカの訓練の目的を理解し、訓練により初めて可能となるポディーチェック等の健康管理や採取試料の分析も実際に

体験してもらいます。

主に高校生、大人を対象としたプログラムを行います。

c. ふれあい探検

生き物を間近から観察し、餌やり体験や実際に触れることで、水生生物の体のつくりや生態を親しみながら楽しく学んでもらいます。

普段は体験できない飼育員の仕事を体験することを通して、生き物に対する興味を深めてもらい、いつもは何気なく見ている身近な生物にも興味を持ってもらうことを目指します。

主に児童、ファミリー層を対象としたプログラムを行います。

d. ナイトツアー

通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説することで、生物の生態や自然環境への関心を深めてもらいます。

主にファミリー層を対象としたプログラムを行います。

⑦自然観察会

地域の自然やそこに生息する生き物に対する興味や自然環境保全の意識づくりを目的に、野外での観察会を企画・実施します。

⑧第13回児童絵画展（付帯事業）

描くことを通して、水生生物への関心を高めてもらおうと、小学生を対象に水生生物を描いた絵を募集し、館内団体休憩室に展示します。

オフシーズンにも水族館に足を運んでもらうため、冬期間に実施し、出展者全員に家族割引券を配付することで、展示作品をご覧いただくことはもちろんのこと、水族館の展示もゆっくりと楽しんでもらいます。

展示期間（予定） 平成22年12月11日（土）～平成23年1月14日（金）

⑨スポットガイド

個々の水槽の前でその水槽を担当している飼育員が解説します。担当者としての「こだわり」や「おすすめ観察ポイント」などを直接来館者に語りかけることで、より水生生物を身近に感じていただくことを目的とします。

実施は不定期（各担当者により実施可能な時間帯が異なるため、可能な限り平日は毎日実施）

⑩大人向け水族館講座

高校生以上の大人を対象にした事前応募型プログラムを実施します。これまで、「体験プログラム」や「講座」は主に児童とそのファミリー層を対象としてきましたが、生涯学習の場としての水族館の位置づけをより鮮明にするとともに大人が持っている潜在的な学びへの意欲に対応するプログラムを実施することで、啓発・普及プログラムに幅を持たせることを目的とします。

実施は22年度後半に複数回実施する予定（詳細は未定）

(3) 学習・交流部門

①総合学習（文部科学省の提唱に基づく学習支援活動）の受け入れ

小・中・高等学校等からの要請により、生徒、児童に対して、質疑応答やキーパーエリアガイドを実施し、水族館や水生生物、環境への理解を深めてもらいます。

2回/日、内容により約30分～1時間、1回10名程度

②実習生の受け入れ

a. 博物館実習

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導します。

b. インターンシップ

大学からの要請により、学生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

c. 職業実習（業界研修）

専門学校からの要請により、専門学校生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

③講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生及び理科教育関係者に対して海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。

また、市内の学校等からの要請により、出張授業や職業講和等、教育現場への講師派遣を行います。

(4) 調査・研究部門

①飼育生物に関する調査研究：観察、実験等によって得られた知見の蓄積と公開

<魚類等の繁殖・育成に関する調査研究>

a. 魚類等の繁殖・育成

水族館で飼育している魚種の中で、飼育下で繁殖・育成している種はまだまだ少ないのが現状であることから、繁殖・育成に取り組むことで魚類学・生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

大学等の専門研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示にフィードバックしていきます。

b. 海産無脊椎動物の繁殖・育成に関する調査

主に刺胞動物門（クラゲ等）繁殖・育成に取り組み、生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

<鯨類の繁殖生理に関する調査>

a. 雌の排卵周期についての調査

・非侵害的方法を用いた排卵周期推定技術の確立

イルカの膣粘液等を定期的に採取できるように訓練し、非侵害的方法を用いた排卵周期推定方法の確立を目指します。

b. オスの発情期についての調査

・カマイルカの血清テストステロン濃度と精子濃度に関する調査（継続）

成熟したオスのカマイルカを精液採取が出来るように訓練し、血清テストステロン濃度と精子濃度について調査していきます。

< 鰭脚類の繁殖生理に関する調査 >

a. メスの性ホルモンについての季節変動

アザラシ類の血液採取を実施し、血清プロゲステロン濃度、血清エストロゲン濃度を測定することで、妊娠期、非妊娠期のホルモン周期を把握し、繁殖管理に役立てていきます。

b. 非侵害的方法を用いた妊娠推定技術の確立

アザラシ類の膣粘液を定期的に採取することで、非侵害的方法を用いた発情期、妊娠の推定方法の確立を目指します。

< 死亡時の病理的な調査 >

各臓器や血液等のサンプルを、必要に応じて大学機関等との連携により、組織学的検査や分子生物学的な検査を実施します。死亡動物の病因や死因の解明を目指し、得られた知見を飼育管理に役立てていきます。

②野生水族に関する調査研究：地域の自然史に関する知見の蓄積と公開

< 漂着生物調査 >

漂着鯨類等の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てていきます。漂着情報を確認次第、現場に赴き計測と状態の確認、適宜標本の採取を行います。得られた情報及び試料は、館内の展示や体験プログラム等に反映させていきます。

< 地域生物調査 >

トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てていきます。

③希少水族に関する調査研究：繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保存に関する知見の蓄積と公開

< フンボルトペンギン >

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギン（CITES I種）の生息域外保存（飼育下の繁殖等）に取り組みます。

< ラッコ >

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、国内で急速に減少している飼育下のラッコの繁殖に取り組みます。特に同委員会では、ブリーディングローン（繁殖を目的とした賃借）等での繁殖率の向上を目指しており、これに呼応していきます。

< シナイモツゴ >

シナイモツゴ（環境省RDB 絶滅危惧 I A類）の生息域調査を行い、環境教育等に役立てていきます。また、日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、生息域外保存、繁殖技術の向上に取り組みます。

< ホトケドジョウ >

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ホトケドジョウ（環境省RDB 絶滅危惧 I B類）の生息域外での繁殖技術の確立に取り組みます。

< ハクバサンショウウオ >

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ハクバサンショウウオ（環境省RDB 絶滅危惧 I B類）の生息域外での繁殖技術の確立に取り組みます。

3. リニューアル（基本設計）への協力

平成22年度で開館から20年目を迎える「マリニピア日本海」は、近年、施設・設備の老朽化・損傷・摩耗が顕著化しており、リニューアルを実施していく際に、耐用年数を意識した大規模な修繕を織り込んでいくことが不可欠な状態となっています。

そのような状態の中、新潟市が「リニューアル基本設計」を行う平成22年度は、「水族館事業を行う専門家集団」として、リニューアルや大規模修繕の事業主体である新潟市（文化政策課）に対して、情報提供や積極的な提案を行っていきます。

リニューアルにしろ大規模修繕にしろ、水族館の場合は他の施設と異なり、生物の飼育を継続しながら工事を進めていかなければなりません。設備の連続稼働自体が、飼育生物の生命を支えていることから、設備の更新や工事を実施していく時に、単純に「休館」や「一部利用禁止」にするだけでは済まされないことを念頭におき、現在飼育している生物の命を守りながら、リニューアルや大規模修繕を行っていくためには、「設備の更新や工事自体が可能なのか」「どのような方策であれば可能なのか」「どのような段取りが必要なのか」といった検証を、市に協力して進めていきます。また、水族館では飼育生物と設備が表裏一体であることから、展示コンセプトを具現化するためには、どのような設備機器が望ましいのかということも課題となってくることから、市に対して「水族館業界のトレンド」「新たな飼育手法」「最新の飼育設備」についての情報提供を行っていくことはもちろんこと、「リニューアル後の展示コンセプト」や「設備の更新や工事実施中の飼育継続方法」等についても積極的に提案していきます。

4. 市民ボランティア

いきもの教室の補助、館内案内、館内アンケート、ナンバー調査、来館者との交流等を通して、水族館の運営に直接・間接的に参画してもらうことで、市民と水族館をつなぐ役割としてのボランティア活動を推進していきます。

平成21年度に新規のメンバー募集を行ったことで、ボランティアのメンバー層に厚みができました。平成22年度にも若干名の募集を行う予定です。

ボランティアの自主性をより活性化するために、ボランティア向け研修プログラムを充実させていきます。水族館、来館者、ボランティアの3者が満足できる活動を推進することで、持続的なボランティア活動を目指します。

5. 他館等との協力

平成19年度に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流を活発に行っていきます。

行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

6. 広報および広告宣伝

これまで以上に「広報」的な活動を重視した取り組みを行っていきます。

各メディアへの情報提供方法の見直し、インターネットを活用した広報活動（新しいメディアの有

効活用)などに積極的に取り組みます。

広告宣伝は、これまでの実績を元に、より効率的な方法および量になるように実施します。

ゴールデンウィークと夏休みを重点に、4月から9月にかけて県内及び山形・福島でテレビCMを実施します。テレビ広告が非効率的な群馬と長野については、FMラジオ広告を半年間実施します。

平成18年度から行っている新聞折り込みチラシについては、平成21年度に引き続き高速道路のETC割引効果等が見込めることから、山形・福島・群馬・長野・埼玉の5県で展開するとともに、県内の一部で実施します。

7. アンケートの活用

館内アンケート、各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の積極的な収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、一般客用とパスポート用に分けて実施し、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の評価やニーズの把握に努めます。